Lavaille, P. 1911. Observations sur le développement de l'ovarie chez les Composées. Bull. Soc. Bot. France **68**: 414-417. Maheswari Devi, H. & T. Pullaiah. 1976. Embryology of safflower (*Carthamus tinctorius*). The Botanique **7**: 63-70. Mestre, J.C. 1963-64. Recherches d'embryogénie comparée: Les rapports phylogénetiques des Composées. Diss., Univ. Paris. Pandey, A.K. & S. Chopra. 1979. Development of seed and fruit in *Gerbera jamesonii*. Geophytology **9**: 171-174. Poddubnaja-Arnoldi, V.A. 1931. Ein Versuch der Anwendung der embryologischen Methode bei der Lösung einiger systematischer Fragen. I. Vergleichende embryologische zytologische Untersuchungen über die Gruppe Cynareae, Fam. Compositae. Beih. Bot. Ztbl. **48A**: 141-237. Renzoni-Cela, G. 1970. Studies on the genus *Centaurea* (Asteraceae): Embryology of *Centaurea cineraria* var. *veneris*. N.G. Bot. Ital. **104**: 457-468.

* * * *

アザミ属 *Cirsium acaule* の花粉，胚嚢，胚乳，胚形成を報告した。葯室の壁は細胞層からなり，その最内層は2核の細胞からなる periplasmoidal tapetum を作る。花粉母細胞は同時分裂を行って四面体の四分子を作る。花粉は3細胞期に放出される。胚珠は薄層珠心で1枚の珠皮をもち倒生である。胚柄には腺細胞状の obturator がある。大胞子母細胞は珠心組織内に1個作られ，減数分裂を経て1列の4細胞となり，そのうちカラザ方向の1個が胚嚢母細となる。胚嚢形成は *Polygonum* type である。胚乳形成は多核型である。胚形成は Asterad type の *Senecio* variation である。

□萩原博光・伊沢正名：**森の魔術師たち** 110 pp. 1983. 朝日新聞社，東京. ¥1,600. 変形菌研究者の萩原氏と，特にキノコの写真を得意とするプロカメラマンの伊沢氏とによる，いわゆる真正粘菌 (Ceratiomyxales を含む) についてのすぐれた案内書である。萩原氏の解説は変形菌類の生活史，代表的な属や種の説明，研究小史，採集と標本作製などに及び，森の魔術師たち (変形菌類) の世界を平易に，しかもレベルを下げることなく紹介している。伊沢氏の80葉をこえるカラー写真は「変形菌の華麗な世界」(本書副題) をみごとにとらえ，プロの実力に改めて感服させられる。変形菌類の話をする時に，ぜひ学生に紹介したいと思う本である。なお，従来「○○ホコリカビ」と呼んでいた変形菌類の和名を，本書では「○○ホコリ」に統一してある。これによって和名の共通語尾が縮小され，個々の和名が印象上たいへん区別しやすくなり，すっきりしたものになっている。今後踏襲せられるべきものと考え，評者はここに支持を表明しておきたい。

(三浦宏一郎)